

第
09
号

二〇一八年四月

月報書生閑話

monthly newsletter shosei kanwa 第九号 本郷版 2018.4

卓球を通して
本郷とつながる



スポーツを通じた交流会 「第二回 卓球教室」

皆さんは卓球が好きですか。私は卓球が好きで、十年間近く卓球部で活動していました。大学卒業後は練習の機会が減りましたが、このスポーツは今、私と本郷をつなぐ大事な役割を果たしています。

二〇一八年三月四日（日）、本郷小学校多目的ホールで「第二回卓球教室」を開催しました。この企画は、私が以前所属していた東大卓球部の学生を講師として招き、本郷の住民を対象に卓球の講習を行うというものです。卓球部OB、OGの四人と、本郷地域の小学生や社会人の七人が参加しました。参加者の皆さんは熱心に練習に取り組まれ、ラリー やサーブがどんどん上達していくのが分かりました。

当卓球教室は、昨年七月に開催して以来、第二回目です。私はこの活動を通して本郷のことがより好きになりました。参加者の多くは街の掲示板でこのイベントについて知ったそうです。また、街 ing 本郷の活動をこれからも手助けしたいと言つて下さる方もいらっしゃいました。地域活動に関心の深い方が、本郷には多く住まわれているようです。本郷は地元のつながりを大切にする、温かい街だと思います。

私は、この街の良さを友人や後輩に伝えていきたないと考えています。今回、東大卓球部の後輩たちが快くボランティアを引き受けってくれました。私は大学院を修了しますが、彼らを通じて活動を継続していきたいと思います。これからも卓球を通して、つながりの輪を広げていけたら嬉しいです。**西織**

本郷地域のまちづくりを進めるNPO法人街 ing 本郷には、書生生活というユニークな制度があります。

<http://shosei.tokyo>

本郷の街は書生生活を応援しています。
一緒に書生を応援してくださる大家さん・
不動産屋さんなどを大募集。ご連絡は下
記よりどうぞ。

mating-hongo@nifty.com

書生のまち活動日誌

この春、書生5名が卒業しました。

今までこの月報書生閑話を作成し、書生のうち、五名がこの春大学を卒業し社会に飛び立ちます。様々な活動をしてきた彼ら彼女らの言葉をお伝えします。

◆上島淳史◆

書生の上島と申します。この春東大の修士課程を修了して街 ing 本郷の書生を卒業します。本郷キャンパスに通つて四年近くになりますが、本郷という地域について知るようになつたのは、一年前に書生として活動するようになってからです。活動を通じて、地域の方々と直接お話しする機会をたくさん頂き、本郷の持つ様々な魅力を知ることができました。皆さまのお力添えで本郷がますます好きになりました。感謝の気持ちでいっぱいです。お世話をありがとうございました。

◆下嶋浩平◆

私は昨年の三月から約一年間みのる荘に住ませていただきました。住み始めたきっかけは大学から近い、安

い、隣に飲み部屋がある（笑）といふくらいで、正直街 in g 本郷のことは全然考えていませんでした。最初は書生として、普通に書生閑話の記事を書いて、夏休みセミナーや夏祭りに参加していましたが、その中で小学生や中学生と触れ合うのが純粋に楽しいなと思うようになりました。他の人の考えるイベントに参加するだけでも楽しかったのですが、自分でも何かイベントを作ることができないかと考えるようにな

り、自分の研究テーマに関わるIT技術やロボティクスを生かそうと考えました。そしてLEGOを使つたプログラミング講座を自分で企画し開催しました。自分が主体となつてやることは大変なんだと感じた面もありましたが、子供たちが喜んでくれる姿を見てやつてよかったです。

たと思いました。自分自身一年間で成長を感じることができ、関わったすべての人に感謝しております。

◆西山輝◆

一年間大変お世話になりました。僕の場合は大学もアルバイト先も近く、柏キャンパスに通うこと除いては、ほとんど本郷で過ごしました。僕は三年前に東京に来たのですが、最初の二年は他の地域から本郷に通っていました。住むのと通うのでは大きく違い、自分もこの街の一員になれた気がしました。都心にも関わらず街も人も落ち着いていて、周囲の人も温かく歴史と緑のある文京区、そして本郷は非常に住みやすかったです。本郷に住んだのがたつた一年だ

というのが非常に惜しく、また戻つて来たい気持ちは、今後も関わり続けたいと思います。

◆馬渕菜月◆

本郷の真光荘で暮らしたこの一年、あつとい間でしたが「この街に住んでいる」という感覚はよく感じられた一年でした。毎朝八時ごろから聞こえてくる子どもたちの声、二面の大きな窓から見える隣の家の柿の木、和室ならではの窓取りや寸法に合わせてつくつた家具たち、ふと始まる近所の方との玄関先での立ち話。本郷らしい暮らしとこの身の丈の空間が好きでした。実家とは別にもう一つのホームができたみたいで嬉しく思います。また足の赴くままに歩きながら、まだまだ知らない本郷の魅力を見つけていきたいと思います。あたたかくサポートして

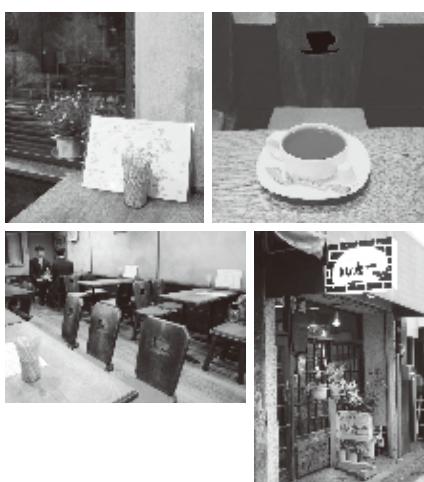
くださった地域の方々には本当に感謝しています。今後ともよろしくお願ひいたします。

◆山部翔太郎◆

私は二〇一六年四月より二年間、書生として本郷にお世話になりました。入居当初は「学校が近くて家賃が安いから」という単純な動機がありましたが、いざ活動に参加してみると、代表の長谷川さんをはじめとした地元の方々やたくさんの学生の方々など、エネルギッシュで刺激的な人たちとの関りが大変楽しく、卒業後も可能な限り本郷に住みたいと思うまでになりました。街づくりに造詣の深い優秀な学生が多数活躍している中で、まったくの初心者をあたたかく受け入れてくださり、大変感謝しています。これが思い出として終わつてしまわぬよう、今後とも何らかの形で本郷と関わりを持てれば幸いです。



「喫茶ルオー」



店舗情報 喫茶ルオー

■住所：東京都文京区本郷 6 丁目 1-14
■営業時間：月曜～金曜 9:30～20:00
土曜 9:30～17:00 定休日：日曜・祝日

のぞきみ・書生生活

FILE 9: 真光荘の紹介



動家の学生同士で飛ばされていたというお話を伺つたこともある。たしかにごろつとかたまり肉とジャガイモが入つていて贅沢だ。

ルオーはそんななかつての東大生のエピソードを引き出せる不思議な空間だと思う。年配の方と会う時によく利用するが、静かな店内でゆつたり一人過ごすのもおすすめ。窓際の席からは本郷通りを見下ろすことができる。(門)

夜寝ていると急にドタン！と音がしたり、ネズミが天井裏を走り回っている音が時々聴こえて感じられる造となっています。部屋は畳敷きの四畳半で時代を感じられる造となっています。僕は明治の書生が如何にもそこには住んでいたような部屋にしようと思ひ、座椅子と小さなテーブルをセッティングして、日々の生活を楽しんでいます。昔ながらの本郷らしいこの建物に住めて幸せです。(西山)